

## 会員企業の最近の動向 <プレスリリースほか(11月発信分)>

特定非営利活動法人 産業・環境創造リエゾンセンター

### <技術革新>

#### 【J&T 環境(株)】

#### ○廃棄物ケミカルリサイクル技術の確立へ！グリーンイノベーション基金事業 C-PhoeniX Process®実証設備の建設スタート(2024/11/7)

JFE エンジニアリング株式会社(社長:福田 一美、本社:東京都千代田区)と J&T 環境株式会社(社長:長谷場 洋之、本社:神奈川県横浜市)は、廃棄物ケミカルリサイクル技術の小型実証設備の建設工事を開始するにあたり、2024年10月31日に JFE スチール株式会社東日本製鉄所(千葉県千葉市)の敷地内に立地する J&T 環境(株)千葉リサイクルセンター内の実証設備建設予定地において、起工式を執り行いました。

本設備は、今年2月に、NEDO グリーンイノベーション基金事業「廃棄物・資源循環分野におけるカーボンニュートラル実現」に採択された「ガス化改質と微生物を用いたエタノール製造による廃棄物ケミカルリサイクル技術の開発」<sup>※1</sup>の実証試験を行うため建設するものです。本実証は、廃棄物ケミカルリサイクル(Waste-to-Chemical)用途向けに最適化された新しい廃棄物ガス化技術、および精製合成ガスの製造技術を確立することを目的としています。C-PhoeniX Process®と名付けたこの技術<sup>※2</sup>は、廃棄物から水素(H<sub>2</sub>)と一酸化炭素(CO)が主成分の精製合成ガスを安定して製造し、そのガスをプラスチックや SAF<sup>※3</sup>の原料、水素源として利用するためのもので、廃棄物のケミカルリサイクルプロセスに不可欠な技術です。本技術の確立により、当社グループは廃棄物ケミカルリサイクルの実現に大きく寄与できると考えています。

本実証設備は、2025年度下期に運転を開始し、2026年度に実証試験を完了する予定です。本実証を通じ、当社グループは廃棄物処理分野のトップランナーとして、脱炭素社会を実現する革新的な新技術による廃棄物処理スキームを開発・確立し、2030年度までの社会実装を目指してまいります。

※1:<https://www.jfe-eng.co.jp/news/2024/20240215.html>

※2:<https://www.jfe-eng.co.jp/news/2024/20240207.html>

※3:持続可能な航空燃料(Sustainable Aviation Fuel)



起工式全体風景



集合写真

(前列左から)

NEDO サークュラーエコノミー部 部長 福永 茂和 様

環境省環境再生・資源循環局廃棄物適正処理推進課 課長補佐 山田 浩司 様

千葉市環境局 局長 宮本 寿正 様

(後列左から)

J&T 環境株式会社 代表取締役社長 長谷場 洋之

JFE スチール株式会社 常務執行役員 東日本製鉄所 千葉地区副所長 高岡 隆司 様

JFE エンジニアリング株式会社 常務執行役員 薄木 徹也

清水建設株式会社 専務執行役員 齊藤 武文 様

## ■実証概要

建設予定地	JFE スチール(株)東日本製鉄所(千葉県千葉市) J&T 環境(株)千葉リサイクルセンター敷地内
処理能力	20トン/日
期間	2024～2026 年度

## 【(株)レゾナック】

### ○AIを活用した材料探索ツールを開発(2024/11/14)

～最適組成を従来の 1/5 の時間で探索し、高解像度を実現する半導体パッケージ用レジストのポリマーを発見～

株式会社レゾナック(社長:高橋秀仁、以下、当社)は、AI(人工知能)を活用し、材料の最適な組成を従来の 5 分の 1 の時間で探索できる独自技術を確立しました。

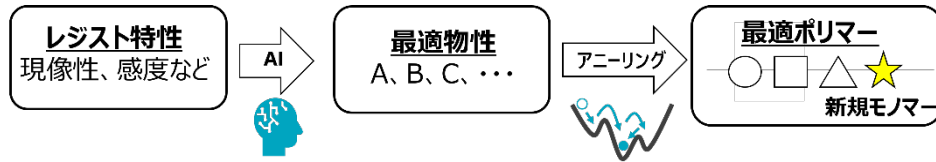
当社は、本技術を用いることにより、半導体パッケージ用レジストの感光性樹脂の原料となるポリマー(重合体)の探索に成功しました。この実証を受け、当社は、材料探索の汎用ツールとして本技術の社内展開を開始しました。当社は、本技術の活用により、半導体材料創出の加速を図ります。

半導体パッケージの配線の微細化が進行し、配線を形成するために用いるレジストの感光性樹脂には高い解像度であることが求められています。感光性樹脂を構成する材料のうち、ポリマーが性能に与える影響は大きく、ポリマーには、現像性が良いことや、感度が高いことなど複数の要素が求められます。

ポリマーは、多数のモノマー(単量体)が結合したもので、これまで、多数のモノマー候補の中からモノマーの組成比・種類も含めた最適な配合を見つけることは、組み合わせが膨大なため困難でした。しかし、当社は、複数の目標特性値を設定し、AI モデルによりこの特性値を満たす最適なポリマー物性を計算した後、アニーリング技術\*を適用することで、短時間で最適なモノマーおよび、その組成比を求めることに成功しました。例えば、モノマー100種から 5 種選び、さらに組成比の合計が 100%となるように各モノマーの組成比を 1%ごとの刻みで計算する場合

(組成比の例: 20:20:20:20:20、10:10:5:5:70 など)、従来法では概算で約 10 万年かかりますが、アニーリング技術を使うと約 10 秒で計算することができます。

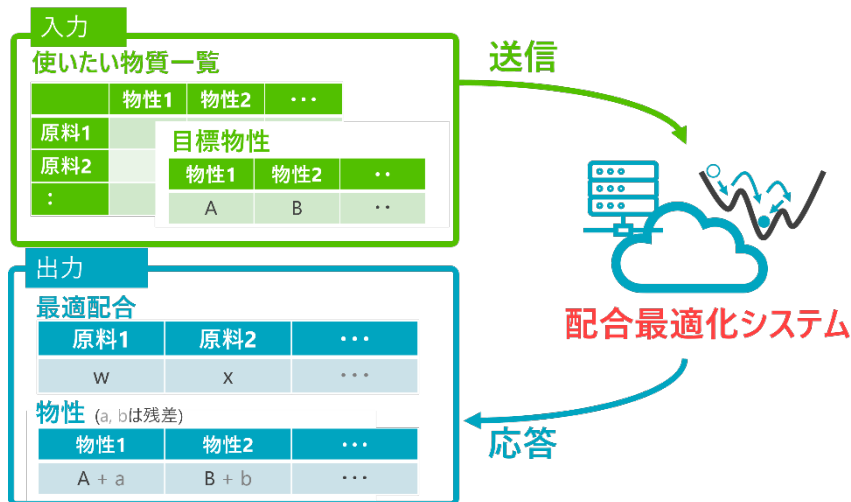
ここで得たポリマーを用いた試作品は、良好な特性を示すことが実験にて証明され、現在は、添加剤等他の材料を含めた最適化に取り組んでいます。なお、本技術を活用することで、配合から試作までに要した時間は、熟練者が行う場合の 5 分の 1 に短縮できました。



レジストポリマー最適化のイメージ

当社は、本技術を活用して、汎用的な配合最適化システムを構築し、社内展開を開始しました。このシステムでは、ユーザーが組成物の目標物性とそれを構成する原料の物性を入力すると、目標物性に近い原料配合比率を得ることができます。

本技術は、レジストポリマー設計に限らず樹脂設計や複合材料など幅広い分野に使用できる汎用的な技術であり、レゾナックが強みとする半導体後工程製品へも活用を開始しています。



アニーリングによる配合最適化システム

半導体の技術革新加速に伴い、高性能な材料を迅速に提案することが求められている中、当社は、マイクロ/マクロシミュレーション、AI/MI(マテリアルズ・インフォマティクス)など、計算科学、情報科学をフルラインアップで保有する計算情報科学研究センターのリソースの 7 割を半導体材料開発に投下し、成果を上げています。

今後も計算科学、情報科学の活用に注力し、時代が求める機能をいち早く創出することにより、グローバル社会の持続的な発展に貢献します。

\*局所解にはまらずに、高速で最適解を探索することが可能な計算手法。

## 【東京電力エナジーパートナー(株)】

(東京電力ホールディングス(株)、日本ファシリティ・ソリューション(株)と連名)

### ○在日米海軍横須賀基地司令部による仮設電源サービスの採用について(2024/11/20) ～基地構内の電力レジリエンス維持・向上に貢献～

東京電力ホールディングス株式会社(社長:小早川智明、本社:東京都千代田区、以下「東京電力 HD」)、東京電力エナジーパートナー株式会社(社長:長崎桃子、本社:東京都中央区、以下「東京電力 EP」)、および日本ファシリティ・ソリューション株式会社(社長:成願靖朗、本社:東京都品川区、以下「JFS」)は、在日米海軍横須賀基地司令部(以下、「横須賀基地」)に「仮設電源サービス(以下「本サービス」)」を採用いただき、本日、設備の設置

に着工しました。

本サービスは、横須賀基地における電源の信頼性と安定性の維持・向上のため、基地内の電力不足時に稼働する仮設発電機等を設置し、発電した電力を定額でご利用いただくもので、2025年5月に開始いたします。

#### ■本サービスの概要

本サービスは、横須賀基地と東京電力 EP の契約の下、東京電力 HD が仮設発電機等の設備設計を、JFS が設備の設置に加え、その後の設備の維持・監視等を行うことで提供されます。当該設備には、国内最大級の出力となる仮設発電機(8,800kVA)が設置されます。

また、仮設発電機の起動時に発生する変圧器の電流を抑制し、供給先の機器を保護するソフトスタートや負荷変動吸収等の機能を有するリチウムイオン蓄電池設備(872kWh)を設置し、災害等に備えた電源の信頼性・安定性を強化します。このような蓄電池の役割は、カーボンニュートラル社会の実現へ向け、今後拡大する蓄電池マルチユースの重要な機能の一つに挙げられています。

#### ■採用の背景

横須賀基地からは、主に以下の点をご評価いただき、本サービスを採用いただきました。

- ・新たな電気設備を保有することなく、電源の信頼性と安定性を維持・向上できること
- ・必要に応じて仮設発電機や蓄電池、遮断器設備等を迅速に設置および撤去できること
- ・東京電力 HD が独自に設定した高い安全基準に則した蓄電池とその活用方法の知見等に基づき、横須賀基地が進める電力レジリエンス※の取り組みに貢献できること 等

※電力インフラおよびシステムの強じん性を表しています

#### ■東京電力グループの取り組み

東京電力 HD、東京電力 EP および JFS は、お客さまのエネルギー活用を踏まえた市場開拓力・課題解決力などの強みを生かし、社会的価値を高めるとともに、高い信頼性と安全・安心な電力システムの構築に引き続き寄与してまいります。

#### ■主な機器概要

##### 【仮設発電機設備】

- ・仮設発電機: 8 台 × 1,100kVA-440V-60Hz ディーゼル発電機(1,950L 燃料タンク付)
- ・昇圧変圧器: 4 台 × 2,000kVA-440/6,600V 油入変圧器
- ・遮断機設備: 7 台 × 12.5kA-6,600V 真空遮断器(VCB)+1 台 × 6,600V 断路器(LBS)

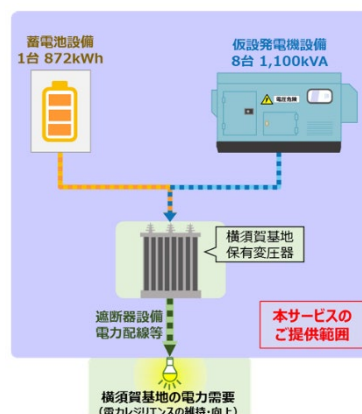
##### 【蓄電池設備】

- ・蓄電池: 1 台 × リチウムイオン蓄電池(DC 端 872kWh)
- ・交直変換装置: 1 台 × 500kVA 交直変換装置
- ・連系遮断器他: 1 台 × 12.5kA-6,600V 真空遮断器(VCB)+1 台 × 500kVA 油入変圧器
- ・特記事項: 蓄電池安全規格 JIS C8715-2 および JIS C4441 に加え、東京電力 HD 独自の安全基準に則した高い安全性を確保

##### 【遮断器設備等】

- ・遮断器設備: 3 台 × 20kA-13,800V 真空遮断器(VCB)
- ・電力配線: 亘長約 1km × 13,800V ケーブル工事 等

#### ■本サービスのご提供範囲



## 【東京電力パワーグリッド(株)】

### CO<sub>2</sub> 排出量削減に向けた植物由来の絶縁油を使用した電力会社向け (2024/11/25) 一体輸送型油入大型変圧器の国内初適用について

当社は、東京電力グループ大目標である「2050 年におけるエネルギー供給由来の CO<sub>2</sub> 排出実質ゼロ」の達成に向け、従来の化石燃料を基とした鉱油から製造される絶縁油に代わり、植物由来の絶縁油(以下、「植物油」)を使用した変圧器(以下、「本変圧器」)を岩富変電所(千葉県佐倉市)に設置し、11 月 22 日より運用開始しましたので、お知らせします。

これまでの植物油を使用した電力会社向け油入大型変圧器は、製造工場での出荷試験後に変圧器から油を抜いて変電所へ輸送しておりましたが、本変圧器では植物油を入れた完成状態で変電所へ輸送(一体輸送)することが可能となります。

一体輸送については、植物油を使用した電力会社向け油入大型変圧器としては国内初の適用となり、現地での注油作業を省略することが可能となることから、工事工程の短縮に寄与することができます。

当社では菜種・大豆・パームヤシを原材料とした植物油の適用を予定しており、それら原材料の成長過程において大気から CO<sub>2</sub> を吸収する効果を見込むことができます。

また、植物油では将来的な変圧器の廃止時においても、バイオディーゼル燃料として植物油の利用が見込め、化石燃料の使用量削減にも貢献できるものとなっております。

加えて、植物油では万が一自然災害などで、自然環境中へ油流出が発生した場合においても、土壌の微生物により油が自然分解される生分解性を有しており、環境負荷低減が期待できます。

当社は引き続き、植物油を使用した変圧器の設備導入を拡大していくことで、カーボンニュートラルへの貢献に向けた取り組みを推進してまいります。

<別紙>

#### 植物由来の絶縁油を使用した変圧器概要

##### 1.設置場所

岩富変電所(千葉県佐倉市)

##### 2.適用設備

- ・66kV/6kV-20MVA 変圧器:1 台
- ・使用絶縁油:植物油(パームヤシ脂肪酸エステル)
- ・変圧器製造者:株式会社明電舎

##### 3.設備外観



#### 4.今後の納入予定

2024 年度において、計 4 台を納入予定

参考：植物油の適用による CO<sub>2</sub>削減効果

<従来の鉱油の変圧器>



<植物油の変圧器>



#### 【富士電機(株)】

((株)デンソーと連名)

#### ○富士電機とデンソーが共同申請した「半導体の供給確保計画」が経済産業省より認定

(2024/11/20)

富士電機株式会社(代表取締役会長 CEO:北澤 通宏、本社:東京都品川区、以下、富士電機)と株式会社デンソー(代表取締役社長 CEO:林 新之助、本社:愛知県刈谷市、以下、デンソー)が共同申請した「半導体の供給確保計画」が経済産業省より認定されましたのでお知らせします。本計画は、両社が、炭化ケイ素(SiC)パワー半導体に関する投資および製造連携を行い、供給基盤を整備・強化するものです。

パワー半導体は電力を効率良く供給するために欠かせない製品です。脱炭素社会の実現に向けて自動車の電動化が加速する中、電動車に必要なパワー半導体の需要が急速に高まっています。SiC パワー半導体は、従来の Si(シリコン)よりも、高温、高周波、高電圧環境での性能が優れていることから、BEV(バッテリー電気自動車)向けシステムをはじめとしたパワーエレクトロニクス機器の電力損失低減、小型・軽量化に大きく貢献するとして注目され、需要拡大が期待されています。

富士電機は、パワーエレクトロニクス機器の高効率化や小型化に貢献する SiC パワー半導体素子の開発からモジュールの量産まで一貫した体制を備えてきました。また、デンソーは、これまで電動化の進展を見据え、ウエハや素子、モジュールからインバーターに至るまで、高品質・高効率を実現するための SiC 技術を総合的に開発してきました。今後、車載分野における両社の製品開発力と生産技術力を生かし、広く国内の SiC パワー半導体の効率的かつ安定的な供給能力拡大に向けて連携していきます。

両社は、この度の連携を通じて、国内の半導体安定供給体制の構築に貢献し、半導体業界および自動車業界の国際的な競争力向上に寄与するとともに、脱炭素社会の実現を目指していきます。

<認定された供給確保計画の概要>

業者名	富士電機株式会社 株式会社デンソー
事業総額	2,116 億円(最大助成額:705 億円)
生産場所	富士電機株式会社 松本工場(SiC エピタキシャルウエハ、SiC パワー半導体) 株式会社デンソー 大安製作所(SiC ウエハ)、幸田製作所(SiC エピタキシャルウエハ)
内容	SiC パワー半導体の国内における生産能力強化

<SDGs>

【旭化成(株)】

○「PRIDE 指標 2024」の「ブロンズ」を受賞(2024/11/14)

旭化成株式会社(本社:東京都千代田区、社長:工藤 幸四郎、以下「当社」)は、職場における LGBTQ +などのセクシュアル・マイノリティに関する取り組みの評価指標「PRIDE 指標 2024」において、当社グループ 6 社が「ブロンズ」を受賞しましたのでお知らせします。



旭化成グループ「PRIDE 指標 2024」ブロンズ受賞企業

- 旭化成株式会社
- 旭化成エレクトロニクス株式会社
- 旭化成ホームズ株式会社
- 旭化成建材株式会社
- 旭化成ファーマ株式会社
- 旭化成メディカル株式会社

当社グループでは、個人の基本的な人権と多様性を尊重し、あらゆる事業活動において国籍・人種・出自・民族・宗教・性別・思想・年齢・身体的特徴・性的指向や性自認・雇用形態・契約形態その他を理由とする差別を行わず、また容認しないという会社方針を「旭化成グループ行動規範」に明記しています。

LGBTQ+に関する主な取り組み

- 2021 年 1 月より、同性パートナーを法律上の婚姻関係のある配偶者と同等の位置づけの親族として登録可能とし、介護休暇や家族看護休暇、各種手当など、親族を前提とした制度の利用を可能にする運用を開始
- 2024 年度より、性の多様性に関する理解促進を目的に全社員向けに e ラーニングを実施
- 社長を委員長とする DE&I 委員会を設置し、グループ全体における進捗状況の確認や課題改善に向けて、定期的にモニタリングおよび意見交換を行うなど全社的な推進体制を強化

当社グループは、多様な価値観を有する人財が活躍する人的組織へ発展することが、事業の持続的な成長には不可欠であると考えています。すべての従業員が差別を受けることなく、機会均等が保証され、生き生きと能力を発揮できるよう、今後も社内の理解促進や働きやすい環境整備に取り組んでいきます。

## 当社の DE&I について

[https://www.asahi-kasei.com/jp/sustainability/social/human\\_resources/](https://www.asahi-kasei.com/jp/sustainability/social/human_resources/)

## 「PRIDE 指標」について

「PRIDE 指標」は、LGBTQ+など性的マイノリティが働きやすい職場づくりを日本で実現するために work with Pride が 2016 年に策定した日本で初めてとなる LGBTQ+に関する企業・団体等の取り組みの評価指標です。Policy(行動宣言)、Representation(当事者コミュニティ)、Inspiration(啓発活動)、Development(人事制度・プログラム)、Engagement/Empowerment(社会貢献・渉外活動)の 5 つの指標で構成されており、各指標内で指定の要件を満たしていれば点数が付与され、点数により、ゴールド、シルバー、ブロンズとして企業・団体が認定されます。

<https://workwithpride.jp/pride-i/>

## 【ENEOS(株)】

### ○性的マイノリティに関する取り組みを評価する「PRIDE 指標」で 5 年連続最高評価

#### 「ゴールド」を受賞しました！(2024/11/15)

当社(社長:山口 敦治)は、企業の性的マイノリティに関する取り組みの評価指標である「PRIDE 指標」において、5 年連続最高評価である「ゴールド」を受賞しましたので、お知らせいたします。



「PRIDE 指標」は、LGBTQ+など性的マイノリティが働きやすい職場づくりを日本で実現するために一般社団法人 work with Pride<sup>※1</sup> が 2016 年に策定した日本で初めてとなる LGBTQ+に関する企業・団体等の取り組みの評価指標です。Policy(行動宣言)、Representation(当事者コミュニティ)、Inspiration(啓発活動)、Development(人事制度・プログラム)、Engagement/Empowerment(社会貢献・渉外活動)の 5 つの指標で構成されており、各指標内で指定の要件を満たしていれば点数が付与され、点数により、ゴールド、シルバー、ブロンズとして企業・団体が認定されます。

当社は、グループ長期ビジョンにおいて「エネルギー・素材の安定供給」と「カーボンニュートラル社会の実現」との両立を掲げています。基盤事業を強化しつつ、エネルギートランジションを実現するという大きなチャレンジを担うのは“人”であり、第 3 次中期経営計画における「人材戦略」においても、多様な従業員一人ひとりが持てる能力を最大限発揮できる環境を戦略的に整えるため、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DE&I)を重要な取り組みの一つと位置付けています。

公正で公平な仕組みづくりや従業員の成長を後押しする機会の提供に加え、誰もが自分らしく働けるインクルーシブな職場風土の醸成を目指しています。特に、性的マイノリティに関しては以下の取り組みを行っています。

#### <当社の取り組み>

- 差別やアウティングの禁止に加え、カミングアウトがあった際の適切なコミュニケーションの取り方等をまとめた「職場サポートガイドブック」を発行
- ENEOS ALLY(エネオス アライ)の運営(活動促進のためのグッズ配付や外部イベント参加等)
- 社内への継続的な意識啓発と情報発信(全社 e ラーニングの実施や当事者の方を招いた理解促進セミナーの実施等)



- 社内専門窓口の設置
- 人事制度における「配偶者」の定義に同性パートナーを追加

当社は、人権や多様性尊重の考え方をグループ行動基準に掲げ、今後もダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DE&I)の推進を積極的に図り、継続的な企業価値の向上につなげるとともに、社会の発展と活力ある未来づくりに貢献してまいります。

※1. work with Pride について

一般社団法人 work with Pride は、企業などの団体におけるLGBTQ+など性的マイノリティに関するダイバーシティ・マネジメントの促進と定着を支援する団体です。年に一回、企業・団体の人事・人権・ダイバーシティ担当者を主な対象に、LGBTQ+に関するカンファレンスの開催や、『PRIDE指標』、『レインボー認定』の運用等行なっています。

<https://workwithpride.jp/>

## 【東京ガス(株)】

### ○日立市と東京ガス株式会社の持続可能なまちづくりの実現に向けた包括連携協定の締結について(2024/11/29)

日立市(市長:小川 春樹)および東京ガス株式会社(社長:笹山 晋一)は、このたび、持続可能なまちづくりに向けた包括連携協定(以下「本協定」)を締結しました。

本協定は、日立市と東京ガスの両者それぞれが有する知見を互いに活用し、地域が抱える様々な課題解決に向けて連携・協働することで、強靱で魅力あふれる持続可能なまちづくりの実現および地域社会の更なる発展に資することを目的としています。



(左から 東京ガス常務執行役員:小西 雅子、日立市長:小川 春樹)

#### 連携事項

1. カーボンニュートラルのまちづくりに向けた取組に関する事項
2. 低炭素エネルギーへの転換とエネルギーインフラの整備に関する事項
3. デジタル技術を活用したエネルギーマネジメントの最適化に関する事項
4. 再生可能エネルギーの導入・普及に関する事項
5. 自然災害に対する地域のレジリエンスに関する事項
6. 地域住民・児童・生徒への啓発活動と教育支援・人材育成に関する事項

7. ウェルビーイングやシビックプライドの価値共創に関する事項
8. その他持続可能なまちづくりに向けた地域課題の解決に関する事項

## 締結日

2024年11月28日

## 関係者コメント

日立市長 小川 春樹 コメント

この度、持続可能なまちづくりの実現に向け、東京ガスと包括連携協定を締結し、これまで以上に深く連携して事業推進できますことを大変嬉しく思います。

日立市にとりましても、2050年カーボンニュートラルの実現は、今を生きる私たちが果たさなければならない大きな目標であり、その社会的重要性から2022年3月に「ゼロカーボンシティひたち」を表明しております。

本協定の締結により、東京ガスの持つ知見を活かしながら、再生可能エネルギーの導入及び普及、デジタル技術を活用したエネルギー利用の最適化、将来を担う子どもたちへの環境教育の実施など、「ゼロカーボンシティひたち」の実現に資する様々な取組について検討を進めてまいりますとともに、近い将来においては、日立LNG基地を活用した新たな事業展開や産業創出についても期待を寄せております。

東京ガス株式会社 常務執行役員 地域共創カンパニー長 小西 雅子 コメント

当社は、東京ガスグループ2023-2025年度中期経営計画「Compass Transformation 23-25」において、「エネルギー安定供給と脱炭素化の両立」「ソリューションの本格展開」を掲げ、多くの企業・自治体の皆さまとの協業を通じ、カーボンニュートラル社会の実現等に向けた取組を進めております。昨年11月には、エネルギーの枠を超えてお客さまが抱える課題を解決するソリューションブランド「IGNITURE(イグニチャー)」を立ち上げました。

本協定の締結により、市・市民・事業者が相互に協力し、日立市とともに、当社グループが創業以来培ってきたお客さまからの「信頼」や、「地域密着力」を活かし、地域の課題解決に向けて連携できることを大変嬉しく思っております。今後も、日立市との価値共創により、強靱で魅力あふれる持続可能なまちづくりに取り組んでまいります。

(参考)ソリューション事業ブランド「IGNITURE(イグニチャー)」について

# IGNITURE

東京ガスは、「ソリューションの本格展開」に向け、2023年11月30日、ソリューション事業ブランド「IGNITURE」を立ち上げました。「IGNITURE」の下で展開するソリューションにより、ご家庭、法人、地域・コミュニティのお客さまが、「最適化による経済性・利便性・効率性向上などでさらに豊かな未来」と、「脱炭素・レジリエンス向上などでサステナブルな生活・事業」を、無理なく両立できます。

IGNITUREの詳細は[こちら](#)

## 【JFEエンジニアリング(株)】

### ○橋梁工事でカーボンニュートラルを推進！(2024/11/8)

#### ～二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量を削減した「グリーン鋼材」を橋梁工事で採用～

JFE エンジニアリング株式会社(社長:福田 一美、本社:東京都千代田区)は、橋梁工事の環境負荷低減の取り組みとして、JFE スチール株式会社(社長:広瀬 政之、本社:東京都千代田区)が提供する「グリーン鋼材”JGreeX(ジェイグリークス)”」を、横浜市発注の「都市計画道路桂町戸塚遠藤線(上倉田戸塚地区)街路整備工事(第3工区その31)」「高島橋」(以下、本工事)で採用します。

JFE エンジニアリングが受注した橋梁工事で「グリーン鋼材」を採用するのは今回が初となります。当社は、本工事を受注後、横浜市に対し環境負荷低減の取組みとして「グリーン鋼材」の使用を提案し、新規に本工事に製造する全ての鋼材への採用が決まりました。

本工事で採用する「JGreeX」は、CO<sub>2</sub>排出削減技術により創出した削減量を、「マスバランス方式<sup>※1</sup>」を適用して任意の鋼材に割り当てることで、鉄鋼製造プロセスにおけるCO<sub>2</sub>排出量を100%削減した鋼材<sup>※2</sup>です。

工事の発注者である横浜市は“Zero Carbon Yokohama”を掲げ、2050年までに温室効果ガス排出実質ゼロを達成し、持続可能な大都市の実現を目指しています。当社は、本取り組みを通じて、地元企業としてこの目標達成に貢献してまいります。

※1 一般社団法人日本鉄鋼連盟「マスバランス法を適用したグリーンスチールのCO<sub>2</sub>排出原単位の算定方法に関するガイドライン」に準じ、製品製造プロセス全体の排出量の削減における環境価値を一部の鉄鋼製品に集約しCO<sub>2</sub>排出原単位の低い鉄鋼製品とみなすこと。

※2 以下の①の範囲内で②の削減量を100%割り当てた鋼材

①日本海事協会に検証された(JFES)のGHG排出原単位(スコープ1+2の範囲内)

②日本海事協会に検証された(JFES)の冷鉄源利用拡大によるCO<sub>2</sub>排出削減量(スコープ1+2の範囲内)

## 工事概要

工事名称	「都市計画道路桂町戸塚遠藤線（上倉田戸塚地区）街路整備工事（第3工区その31）」 《高島橋》
施工場所	横浜市戸塚区上倉田町248番地3地先から戸塚町216番地1地先まで
発注者	横浜市
工期	2024年7月～2025年3月
橋梁形式	鋼2径間連続非合成板桁橋
鋼重	250t

## 完成予想図



## <その他>

### 【(株)浜銀総合研究所】

○2024・25年度の景気予測(2024年11月改訂)

[https://www.yokohama-ri.co.jp/html/report/pdf/report241121\\_koizumi.pdf](https://www.yokohama-ri.co.jp/html/report/pdf/report241121_koizumi.pdf)

○2024年冬の神奈川県民ボーナスの見通し

[https://www.yokohama-ri.co.jp/html/report/pdf/report241126\\_shirasu.pdf](https://www.yokohama-ri.co.jp/html/report/pdf/report241126_shirasu.pdf)